

やつはし やわせ  
八橋谷合遺跡

所在地 北設楽郡設楽町八橋字谷合  
(北緯35度7分58秒 東経137度35分35秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成21年11月

調査面積 44㎡

担当者 鈴木正貴



調査地点(1/2.5万「田口」)

**調査の経過** 調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月に実施された。県教育委員会の詳細分布調査の結果、平安時代の遺物散布地として新たに周知された遺跡である。調査では、この分布調査の結果を受け、1m×2mのテストトレンチを22ヵ所設定した。

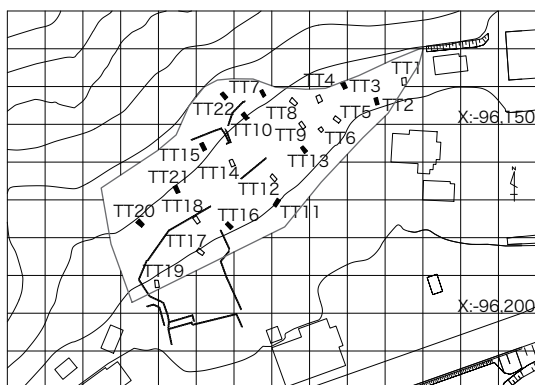
**立地と環境** 境川が大きく彎曲する内側、右岸の河岸段丘上に立地する。標高は約460～475mを測る。

**調査の概要** 調査は植林帯に相当する北西部のみを範囲とした。東端部(TT-1～TT-3)では、厚い堆積物と19世紀の陶磁器類が確認された。ここで検出された造成土や遺構は最近までの屋敷(隠居所)に伴うものである可能性が高い。この他の全てのテストトレンチでは緩斜面となる地山の礫が確認されている。東部の墓道付近(TT-4～TT-9)ではやや谷状地形となっており、遺構は全く確認されなかった。

一方、西部の平坦面を成す部分(TT-10～TT-21)では多くのテストトレンチで遺構が検出され、建物跡の根石を持つもの(TT-13)も存在する。しかし、遺物はほとんどなくわずかに江戸時代のものが認められる程度であった。この地区は石積列の区画施設を伴う平坦面が全面に広がっており、少なくとも近代には居住域などのために開発されており、確認された遺構はこれに関連するものかもしれない。

**まとめ** 本遺跡は、平安時代の遺物が出土したことから発見された遺跡であるが、今回の調査ではその存在は全く確認されなかった。山林部分までは遺跡が広がっていないものと思われる。

(鈴木正貴)



■ 遺構・遺物が確認された試掘坑

テストトレンチ配置(1:2000)



遺跡遠景